

鳶工 川満則智

「鳶職」といえば、目もくらむような高所を自在に歩き回りながら様々な作業をこなす建設現場の花形……といったイメージを持たれがちだが、それは正確ではない。時に「女房役」ともいわれるほど、他の職種の仕事を下支えする役目もあるのだ。

現場のどっぴんぐに憧れて

鳶工・川満則智が故郷の沖縄から東京に出てきたのは、十八歳の時だった。

「地元の工業高校を出て上京して、いろんな仕事をしてみました。で、ふと建設中のビルを見上げると、一番上の高いところで作業してる職人さんがいる。カッコいいなあ」と

そんな純粋な憧れから、知り合いのつてを頼って鳶職の予備知識もなしに飛び込んだのが今の会社だった。

「建設現場は外からしか見たことがなく、最初はやっぱり怖いイメージがありました(笑)。建設資材の名前もなかなか覚えられなくて、『おい、あれ持って来い』って言われてとりあえ

ず「わかりました」って走っていくんですけど、『あれって何だっけ?』とか」

はじめは肉体的にも精神的にもきつい日々を過ごしたが、五、六年もすると現場を任せられるようになった。

「初めて職長として出たのがJR鶴見駅前の再開発の現場で、その中にホールがあったんです。大空間で、スパンも長いので難しいんですけど、周りに相談しながら段取りも自分で考えて……大変だったけどやりがいもありました」

現場における鳶は、家庭なら女房

かつては高い梁の上など不安定な足場を軽々と歩き回る様子から「現場の華」とも言われた鳶工だが、実情はそればかりではない。現場を囲む「仮囲い」をつくったり、外部足場や作業用エレベーターなどの「仮設物」を組んだり……。もちろん鉄骨の柱や梁を建て込むという重要な役割もあるが、他の職種が安心して効率よく作業できる環境づくりも担っている職種なのだ。

「先輩たちには、自分たちの仕事はいろんな職種に絡んでくるから、家庭でたとえれば女房

KEEP

守り、伝えること

「鳶はいわば現場の女房役、他の職種が働きやすい場所をつくる裏方なんです」



左/複数の再開発事業が進行する武蔵小杉駅周辺。現在、川満が働く武蔵小杉駅前東街区(商業施設)は東急東横線・目黒線の武蔵小杉駅に直結しており、駅前の中心施設となる。

中/左から、武蔵小杉駅前東街区(商業施設)新築工事を担当する竹中工務店の大塚博美作業所長、川満、大津勝也総括作業所長、森田健一工事主任。隣接するタワーマンションも同社が施工、川満も作業に従事した。

右/工事現場で発生する騒音や粉塵などを周囲に拡散させないための仮囲い。主な作業が始まる前に、いきなり鳶工の出番が来る。



現場のプロフェッショナル KEEP & CHANGE

だ、と教えられました。他の職種の、つまり旦那さんの言うことをちゃんと聞いて、『それはできない』とか首を横に振っちゃいけない、と」建設現場には、鉄筋工・型枠工・コンクリート工・内装工・設備工・測量工など実に七〇から

八〇種もの職種の作業員が出入りして、それぞれの持ち場で責任を果たしている。その作業のほとんどが、仮囲いや安定した足場が組み立てられなければ始まらない。つまり、鳶がしっかりと仕事をしなければ、現場が回らないともいえる。

「他の職種のために足場、安全施設を作るのも仕事。基本的に、自分たちは裏方だと思っます。まず図面を見てイメージして、どんな足場なら作業しやすいのか考えて、他職に話を聞いて…前の現場でやったことが応用できることもあるけど、やっぱり建物の構造が違えば同じやり方は通じないんで」

他の職長との連携、安全への配慮

現場では職種ごとにその現場責任者である「職長」がいて、職長同士の協力・連携が工事のスムーズな進捗には不可欠だ。川満は、その職長達の世話役も務める。

ゼネコンと協力会社という立場ながら、すでにいくつもの現場で川満とパートナーを組んできた竹中工務店・大津所長は、「若いけど、前向きで非常に優秀なリーダー。自分より年上の人も若い人も、他の職長とのやりとりもうまくまとめ上げて、品質管理も安全管理もおろそかにしない。最初の鉄骨建方なんて、何もないところに柱を建てる一番危険な作業ですけど、朝礼で川満さんと目が合うと、『任せとけ』って表情で安心させてくれるんです」と、全幅の信頼を寄せる。

現在川満が従事している現場は、武蔵小杉駅前再開発。鉄道近接工事のため、夜間作業、

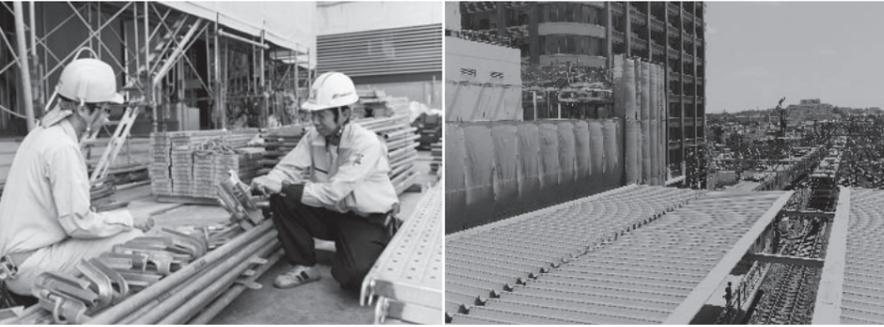
限られた時間、作業範囲制限など様々な制約がある中で、職員・作業員との密なコミュニケーションが欠かせない。全員の命を預かる職長の立場ともなれば、ほとんど気の休まる間もない。「キツイ仕事もあるし、残業もあるし、雨風にも打たれる。誰もがやりたがる仕事じゃないですよ。この格好で電車に乗ると周囲の目気になるっていうのもあるし(笑)。そういうイメージを変えていきたいというのがあります」

「最初にイメージして、段取りして、その通りに仕事が行くようになって、でき上がったものには満足感を感じるし、関わった若手も自信つけて給料も上がって…。それを重ねれば達成感や喜びもあると思うんです。これからこの仕事をめざす人には、見た目で判断せず、そういう部分をちょっとでも経験してもらいたいですね」

CHANGE

応じ、変えること

「仕事内容も教育方法も以前とは違う。
若い人にもこのやりがいを感じてほしい」



左/現場監督や他の職長と、常にコミュニケーションを怠らない。縦横の風通しの良さは、スムーズな工程管理に直結する。
右/駅前再開発の現場では、鉄道の運行時間外での深夜作業など他現場にはない制約が多い。



かわみつ・のりとも © 1977 (昭和52)年、沖縄県生まれ。地元の工業高校卒業後に上京し、(株)秀中土木に入社。鳶工となり、数多くの建設現場で経験を積み、平成19年から同社職長。登録鳶・土工基幹技能者、とび1級技能士、竹中優良職長(マイスター)認定。現在就労中の武蔵小杉駅前東街区(商業棟)作業所職長会では世話役も務める。